

# 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

大台町教育委員会  
平成30年10月

本年4月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、7月31日に文部科学省から公表されました。

調査結果や本町における児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果、今後の取組を以下のとおりまとめました。

調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における「(5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項等」をご覧ください。

なお、本町からのこの調査への参加者は、小学校4校81名、中学校2校67名です。

## 1 教科に関する調査の結果・分析

※結果の分析は、平均正答率が全国平均正答率と比較し、5%以上のものを「強み」と捉え、5%以下のものを「弱み」として捉え記述しました。全国と比べて理解されているかどうかという観点で記述しました。

### (1) 本町における特徴的な傾向

#### <小学校国語A>

##### ○強み

- ・問題8エ：文の中で漢字を使う（かん理）

平均正答率：70.4%（全国：65.0%）

→学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使えています。

##### ○弱み

- ・問題3：【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択する

平均正答率：66.7%（全国：73.9%）

→目的に応じて必要な情報を捉えることができていません。

#### ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域及び評価の観点から見て、特に「書くこと」に関しては全国と比較して力がついています。また、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についても、全国よりやや上の力を示しています。
- ② 学習指導要領の領域及び評価の観点から見て、「読むこと」については課題があります。読解力をつけていく必要があります。
- ③ 国語A問題は、全国平均と同等の力を示しています。

## <小学校国語B>

### ○強み

- ・問題2二：【おすすめする文章】についての□□に、むし歯をふせぐ効果について、【保健室の先生の話から分かったこと】を取り入れて詳しく書く  
平均正答率：22.2%（全国：13.5%）  
→目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書けている児童が全国よりも多くいます。

### ○弱み

- ・問題1二：【話し合いの様子の一部】における司会の発言の役割として、適切なものを選択する  
平均正答率：71.6%（全国：77.5%）  
→計画的に話し合うために、司会の役割について捉えることができていません。
- ・問題2一：「かみかみあえ」についての【おすすめする文章】の最初の部分に□□□□のように書いた理由として適切なものを選択する  
平均正答率：50.6%（全国：57.6%）  
→目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることができていません。
- ・問題2三：【紹介する文章】を基にして【おすすめする文章】を書くときの工夫として適切なものを選択する  
平均正答率：61.7%（全国：70.8%）  
→推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わるものが捉えられていません。

### ■全体の傾向から見られる課題

- ① 学習指導要領の領域や評価の観点から見て、B問題では「読むこと」については全国と同等の力はついています。しかし、「話すこと・聞くこと」「書くこと」についてはもう少し力をつける必要があります。評価の観点から見た「国語への関心・意欲・態度」については、高い数値を示しており、国語に取り組む意欲等はあると考えられます。
- ② 国語B問題は、全国よりやや低い状況を示しています。

## <小学校算数A>

### ○弱み

- ・問題1(2)：針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ  
平均正答率：56.8%（全国：66.7%）  
→1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができていません。

- ・問題 1 (3) : 針金 1 m の重さを求める式を選ぶ  
平均正答率 : 58.0% (全国 : 65.3%)  
→ 1 に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることが理解されていません。
- ・問題 4 (2) : ウとエの二つのシートの混み具合を比べる式の意味について、正しいものを選ぶ  
平均正答率 : 44.4% (全国 : 50.1%)  
→ 単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味が理解されていません。
- ・問題 5 (2) : 分度器の目盛りを読み、 $180^\circ$  よりも大きい角の大きさを求める  
平均正答率 : 44.4% (全国 : 58.5%)  
→  $180^\circ$  や  $360^\circ$  を基に分度器を用いて、 $180^\circ$  よりも大きい角の大きさを求めることができていません。
- ・問題 7 (1) : 円周率を求める式として正しいものを選ぶ  
平均正答率 : 30.9% (全国 : 41.6%)  
→ 円周率の意味について理解できていません。
- ・問題 7 (2) : 円の直径の長さが 2 倍になったとき、円周の長さが何倍になるかを選ぶ  
平均正答率 : 46.9% (全国 : 55.6%)  
→ 直径の長さと円周の長さの関係について理解されていません。

#### ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域から見て、「数と計算」「量と測定」「数量関係」についてはやや低い状況です。「図形」については、力をつけていかなければなりません。
- ② 評価の観点から言えば、「数量や図形についての技能」が劣ります。
- ③ 算数 A については全国より低く、力をつけていく必要があります。

#### <小学校算数 B>

##### ○弱み

- ・問題 1 (1) : 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から見いだすことができる図形として、正しいものを選ぶ  
平均正答率 : 63.4% (全国 : 71.7%)  
→ 合同な正三角形で敷き詰められた模様の中から、条件に合う図形を見いだすことができていません。
- ・問題 2 (1) : 全体で使える時間の中で、「ルールの説明」に使える時間は何分かを書く  
平均正答率 : 61.0% (全国 : 70.5%)  
→ 示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができていません。

- ・問題3(2):一つの事柄について表した棒グラフと帯グラフから読み取ることができることをまとめた文章に当てはまるものを選ぶ  
平均正答率:18.3%(全国:23.9%)  
→棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断できていません。
- ・問題4(1):「32, 40」の二つの数の和が9の段の数になるわけを、分配法則を用いた式に表す  
平均正答率:51.2%(全国:62.7%)  
→示され考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができていません。
- ・問題4(2):横に並んでいる七つの数について、示された表現方法を適用して書く  
平均正答率:53.7%(全国:59.5%)  
→示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できていません。
- ・問題5(1):横の長さが7mの黒板に輪かざりをつけるために必要な折り紙の枚数が、100枚あれば足りるわけを書く  
平均正答率:37.8%(全国:43.2%)  
→折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できていません。
- ・問題5(2):4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ  
平均正答率:58.5%(全国:66.5%)  
→折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができていません。

#### ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 数学Bは、学習指導要領の領域から「数と計算」「量と測定」「数量関係」の3観点については、低い数値を示しています。力をつけていく必要があります。
- ② 数学Bについては、評価の観点から見ても、「数学的な考え方」や「数量や図形についての知識・理解」とも低い状況にあります。
- ③ 算数Bについては、全国よりも低い状況を示しています。

#### <小学校理科>

##### ○強み

- ・問題2(4):上流側の雲の様子や雨の降っている所と下流側の川の水位の変化から、上流側の天気と下流側の水位の関係について言えることを選ぶ  
平均正答率:67.1%(全国:59.8%)

→より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できています。

## ○弱み

- ・問題 1 (1) : 野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ

平均正答率 : 75.6% (全国 : 82.1%)

→安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想することができていません。

- ・問題 3 (2) : 回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ

平均正答率 : 35.4% (全国 : 47.7%)

→電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することができていません。

- ・問題 3 (4) : 目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の 1 日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ

平均正答率 : 36.6% (全国 : 41.9%)

→太陽の 1 日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できていません。

## ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の区分等で A 区分の「物質」については力がついています。「エネルギー」については、力を入れていく必要があります。B 区分の「生命」「地球」については、ほぼ力がついています。
- ② 評価の観点からは、「観察・実験の技能」については力がついています。「自然事象への関心・意欲・態度」については、全国と比べて低くなっています。
- ③ 「理科」については、ほぼ全国並みの力がついています。

## <中学校国語 A>

### ○強み

- ・問題 4 一 : 意見文の下書きに一文を書き加える意図として適切なものを選択する

平均正答率 : 68.7% (全国 : 62.8%)

→書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討することができています。

- ・問題 5 一 : 本文の第六段落の説明として適切なものを選択する

平均正答率 : 82.1% (全国 : 76.3%)

→段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てることができています。

○弱み

- ・問題 8 六 2 : 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す (とほさざるなし)  
平均正答率 : 49.3% (全国 : 63.0%)  
→歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができていません。

■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域や評価の観点から見て、「読むこと (能力)」に関しては特に力がついています。
- ② 国語 A については、全国平均よりやや高い力を示しています。

<中学校国語 B>

○強み

- ・問題 2 三 : ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する  
平均正答率 : 59.7% (全国 : 54.6%)  
→全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことを選択ができています。
- ・問題 3 一 : 登場人物についての説明として適切なものを選択する  
平均正答率 : 88.1% (全国 : 80.2%)  
→場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することができています。

○弱み

- ・問題 2 二 : 二人に続いてする質問を書く  
平均正答率 : 82.1% (全国 : 88.3%)  
→話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問することができています。

■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域のうち、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については特に力がついています。「話すこと・聞くこと」「読むこと」についても、全国平均並みの力がついています。
- ② 国語 B については、全国平均と同等の力を示しています。

## <中学校数学A>

### ○強み

- ・問題3(1): 一元一次方程式  $6x - 3 = 9$  を解く際に用いられている等式の性質を選ぶ  
平均正答率: 70.1% (全国: 64.0%)  
→方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解しています。
- ・問題3(3): 連立二元一次方程式  $5x - 2y = 10$ ,  $3x - 2y = 2$  を解く  
平均正答率: 86.6% (全国: 80.0%)  
→簡単な連立二元一次方程式を解くことができます。
- ・問題10: 点  $(-2, 3)$  の位置を座標平面上に示す  
平均正答率: 79.1% (全国: 69.9%)  
→座標平面上に点の位置を示すことができます。
- ・問題14(1): 生徒35人の靴をサイズごとに調べ、最頻値が25.5cmだったことについて、必ずいえる記述を選ぶ  
平均正答率: 76.1% (全国: 68.4%)  
→最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解しています。

### ○弱み

- ・問題1(3):  $2 \times (-5^2)$  を計算する  
平均正答率: 59.7% (全国: 68.9%)  
→指数を含む正の数と負の数の計算ができていません。
- ・問題1(4): ある日の最低気温がその前日の最低気温からどれだけ高くなったかを求める式を選ぶ  
平均正答率: 46.3% (全国: 54.2%)  
→ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されるkと賀理解できていません。
- ・問題2(4): 等式  $S = 1/2 ah$  を、aについて解く  
平均正答率: 37.3% (全国: 48.2%)  
→具体的な場面で関係を表す式を等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができていません。
- ・問題4(1): ひし形が線対称な図形か点対称な図形か選ぶ  
平均正答率: 55.2% (全国: 67.1%)  
→ひし形は線対称な図形であり、点対称な図形でもあることが理解できていません。
- ・問題4(3): 長方形ABCDを、点Aを中心として時計回りに90°だけ回転移動した図形を書く  
平均正答率: 56.7% (全国: 66.1%)  
→回転移動した図形を書くことができていません。

- ・問題 5 (4) : 底面の四角形が合同で高さが等しい四角柱と四角錐の体積の関係について、正しいものを選ぶ  
平均正答率 : 44.8% (全国 : 57.6%)  
→四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の  $1/3$  であることが理解できていません。
- ・問題 8 : 対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ  
平均正答率 : 40.3% (全国 : 45.5%)  
→証明の必要性和意味が理解できていません。
- ・問題 11 (2) : 一次関数  $y = -2x + 6$  が表すグラフを選ぶ  
平均正答率 : 43.3% (全国 : 56.3%)  
→一次関数  $y = ax + b$  について、 $a$  と  $b$  の値とグラフの特徴を関連付けて理解できていません。
- ・問題 12 : 歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ  
平均正答率 : 25.4% (全国 : 36.4%)  
→一次関数の意味が理解されていない。
- ・問題 13 : グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ  
平均正答率 : 53.7% (全国 : 62.7%)  
→連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上の 2 直線の交点であることを理解できていません。
- ・問題 14 (2) : 反復横とびの記録の中央値を求める  
平均正答率 : 68.7% (全国 : 74.0%)  
→与えられた資料から中央値を求めることができていません。
- ・問題 15 (1) : 1 枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ  
平均正答率 : 32.8% (全国 : 40.2%)  
→多数回の試行の結果から得られる確率の意味が理解できていません。
- ・問題 15 (2) : 大小 2 つのさいころを同時に投げるとき、和が 8 になる確率を求める  
平均正答率 : 59.7% (全国 : 71.3%)  
→表などを利用して、確率を求めることができていません。

#### ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域から見て、「数と式」については全国平均並みの数値を示しています。しかし、「図形」「関数」「資料の活用」の 3 領域については、全国平均より低い数値となっています。
- ② 数学 A に関して、全国平均より低い数値を示しています。力をつけていく必要があります。

## <中学校数学B>

### ○強み

- ・問題4(2): 平行四辺形 $ABCD$ の外側に2つの点 $E$ 、 $F$ を取っても、四角形 $EBFD$ は平行四辺形となることの証明を完成する  
平均正答率: 47.8% (全国: 42.4%)  
→発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができます。

### ○弱み

- ・問題1(2): 放送計画で、1日目が $A$ 、2日目が $B$ になる確率を求める  
平均正答率: 29.9% (全国: 43.9%)  
→与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向をとらえることができていません。
- ・問題1(3): 全校よりも1年生の解答用紙によるくじ引きの方が曲 $F$ が選ばれやすいことの原因を確率を用いて説明する  
平均正答率: 29.9% (全国: 36.2%)  
→不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができていません。
- ・問題2(2): はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する  
平均正答率: 25.4% (全国: 37.5%)  
→事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができていません。
- ・問題4(1): 証明されたことから、新たにわかることを選ぶ  
平均正答率: 47.8% (全国: 55.4%)  
→聡明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができていません。
- ・問題4(3): 平行四辺形 $ABCD$ を正方形 $ABCD$ に変えたときの四角形 $EBFD$ がどのような四角形になるかを説明する  
平均正答率: 31.3% (全国: 42.3%)  
→付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができていません。
- ・問題5(2): 通常料金を $a$ としたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する  
平均正答率: 1.5% (全国: 10.4%)  
→里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができていません。

## ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の領域から見て、「数と式」「図形」「資料の活用」については全国平均より低く、「関数」については高い状況です。
- ② 評価の観点からみて、「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」は低くなっています。
- ③ 数学Bは全国平均より低い状況です。

## <中学校理科>

### ○強み

◇問題2：理科通信のアサリに興味を持ち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探求する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる

・問題2(2) 3.0%の濃度： 平均正答率：53.7% (全国：46.9%)  
→濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できています。

・問題2(3)： 平均正答率：86.6% (全国：79.7%)  
→「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘できています。

・問題3(3)：コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探求する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる

平均正答率：59.7% (全国：52.3%)

→シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できています。

・問題4(2)：図書だよりに紹介されていたファラデーの「ロウソクの科学」を読んで、ガスバーナーを使った燃焼を科学的に探求する場面において、実験器具の操作や化学変化と原子・分子、条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる

平均正答率：59.7% (全国：44.1%)

→炎の色と金網に付くススの量調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘することができます。

◇問題6：自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探求する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる

・問題6(1)： 平均正答率：80.6% (全国：70.5%)

→電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識が身につけています。

- ・問題 6 (3): 平均正答率 : 97.0% (全国 : 91.4%)  
→豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係が指摘できています。
- ・問題 7 (2): 緊急地震速報による避難訓練の後、地震を科学的に探求する場面において、地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる  
平均正答率 86.6% (全国 : 78.5%)
- ・問題 8 (3): 火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探求して実験ノートにまとめる場面において、化学変化と熱についての知識と問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる  
また、探求の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見いだし探求を深めようとしているかどうかをみる  
平均正答率 : 79.1% (全国 : 74.0%)  
→探求の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見いだし探求を深めようとしています。  
アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見い出すことができます。

#### ○弱み

- ・問題 1 (1): 光の反射を利用した「テレプロンプター」のモデルを作って科学的に探求する場面において、光の直進や反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用することができるかどうかをみる  
平均正答率 : 52.2% (全国 : 61.7%)  
→光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能の活用ができていません。
- ・問題 5 (1): 「運転中に運転士に話しかけるとブレーキを踏むのが遅れるのではないか」という予想を科学的に探求する場面において、刺激と反応についての知識と自然の事物・現象の実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することができるかどうかをみる  
平均正答率 : 49.3% (全国 : 57.2%)  
→神経系の働きについての知識が身に付いていません。
- ・問題 6 (2) 抵抗 : 自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探求する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる  
平均正答率 : 37.3% (全国 : 51.9%)  
→オームの法則を使って、抵抗の値を求めるもとができていません。

- ・問題 8 (1): 火を使わないで発熱する商品の仕組みを科学的に探求して実験ノートにまとめる場面において、化学変化と熱についての知識と問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる  
また、探求の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探求を深めようとしているかどうかをみる

平均正答率: 71.6% (全国: 83.5%)

→アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識が身に付いていません。

- ・問題 9 (2): 部屋に見立てた容器に植物を入れて湿度の変化を化学的に探求する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる

平均正答率: 11.9% (全国: 19.4%)

#### ■全体の傾向から見られる課題等

- ① 学習指導要領の分野等の区分からみると、第1分野の「化学的領域」、第2分野の「生物的領域」「地学的領域」とも、全国平均より高い数値を示しています。  
第1分野の「物理的領域」は、やや低い数値となっています。
- ② 評価の観点からは、「自然事象への関心・意欲・態度」と「観察・実験の技能」に関しては特に高い数値を示しています。また、「科学的な試行・表現」についても高くなっています。「自然事象についての知識・理解」がやや低くなっています。
- ③ 「理科」については、全国平均よりやや高い力を示しています。

## 2 質問紙調査（児童生徒用・学校用）に関する調査の結果・分析

### (1) 自己肯定感について

#### 【児童・生徒質問紙】

◇項目1：自分には、よいところがあると思いますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 89.0%（三重県83.4%、全国84.0%） 全国比+ 5.0
- ・生徒 71.7%（三重県79.9%、全国78.8%） 全国比- 7.1

◇項目2：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 87.8%（三重県86.4%、全国85.3%） 全国比+ 2.5
- ・生徒 77.6%（三重県84.2%、全国82.2%） 全国比- 4.6

◇項目3：将来の夢や目標を持っていますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 78.1%（三重県83.7%、全国85.1%） 全国比- 7.0
- ・生徒 59.7%（三重県72.5%、全国72.4%） 全国比- 12.7

◇項目5：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

- ・児童 98.8%（三重県97.0%、全国96.8%） 全国比+ 2.0
- ・生徒 97.0%（三重県96.2%、全国95.5%） 全国比+ 1.5

◇項目6：人の役に立つ人間になりたいと思いますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 93.9%（三重県95.5%、全国95.2%） 全国比- 1.3
- ・生徒 91.1%（三重県95.5%、全国94.9%） 全国比- 3.8

#### 【学校質問紙】

◇項目24：調査学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか（中学校：項目23）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県98.3%、全国96.5%）
- ・中学校 100.0%（三重県96.2%、全国95.0%）

◇項目23：調査対象の学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか（中学校：項目22）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県84.0%、全国83.3%）
- ・中学校 100.0%（三重県99.4%、全国98.6%）

◇項目 30：調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか（生徒：項目 29）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100. 0%（三重県 99. 4%、全国 99. 0%）
- ・中学校 100. 0%（三重県 99. 4%、全国 97. 9%）

■児童の場合、「自分には、良いところがある」と答えた児童が、全国よりも 5 ポイント高い数値を示しています。自己肯定感が強く、良い傾向にあるといえます。その反面、「将来の夢や目標を持っているか」については、全国よりも低い数値を示しています。夢や目標を持って生きることの大切さを実感させることも大切であると考えます。

■生徒の場合は、「自分に良いところがあると思う」は、全国平均よりも低い数値を示しています。また、「将来の夢や目標を持つ」ことは、児童以上に全国よりも 12% 強の低い数値を示しています。自尊感情を育てることや、将来への夢や目標を持たせていくような指導が大切です。

■児童・生徒とも、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と考えている割合が、全国よりも高い数値を示しています。ただ、2% 前後の「いじめはいけないことだ」と捉えていない児童・生徒への指導をしていかなければなりません。

■学校質問紙で、「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」という設問では、小中学校全校とも指導していると答えています。キャリア教育の中で取り組む内容となりますが、生徒の答えと合わせて、どのように「夢や目標を持たせていくのか」今後考えていく必要があります。

また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いには、児童は全国よりも高く肯定的に捉えています。生徒はやや低く自己肯定感を高めようとする必要があります。

## （2）生活習慣について

### 【児童・生徒質問紙】

◇項目 7：朝食を毎日食べていますか

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・児童 95. 1%（三重県 94. 7%、全国 94. 5%） 全国比+ 0. 6
- ・生徒 95. 5%（三重県 92. 0%、全国 91. 9%） 全国比+ 3. 6

◇項目 8：毎日同じくらいの時刻に寝ていますか

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・児童 80. 4%（三重県 75. 1%、全国 77. 0%） 全国比+ 1. 9
- ・生徒 74. 6%（三重県 74. 0%、全国 74. 2%） 全国比+ 0. 4

◇項目 9 : 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 91.5% (三重県88.3%、全国88.8%) 全国比+ 2.7
- ・生徒 97.0% (三重県89.6%、全国90.3%) 全国比+ 6.7

■「朝食を食べているか」という問いに対して、本年度は児童・生徒ともに全国平均を上回っています。しかし、朝食を食べてこない児童・生徒が5%弱あります。これらの児童・生徒の状況を把握する必要があります。「寝る時間・起きる時間」については、児童・生徒ともに全国平均を上回っています。ある程度規則正しい生活ができているようです。しかし、寝る時間が一定せず、やや不規則傾向にある児童・生徒も少なからずいる状況が見えます。

### (3) 学習習慣・読書習慣について

【児童生徒質問紙】

◇項目 10 : 家で、自分で計画を立てて勉強していますか。

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 67.1% (三重県67.6%、全国67.6%) 全国比- 0.5
- ・生徒 50.7% (三重県54.8%、全国52.1%) 全国比- 1.4

◇項目 11 : 家で、学校の宿題をしていますか。

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 96.3% (三重県97.8%、全国97.1%) 全国比- 0.8
- ・生徒 95.5% (三重県93.5%、全国91.6%) 全国比+ 3.9

◇項目 12 : 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

- ・児童 56.1% (三重県61.1%、全国62.6%) 全国比- 6.5
- ・生徒 53.8% (三重県55.7%、全国55.2%) 全国比- 1.4

◇項目 13 : 家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか

- ・児童 59.7% (三重県68.2%、全国69.9%) 全国比- 10.2
- ・生徒 65.6% (三重県71.1%、全国71.3%) 全国比- 5.7

◇項目 14 : 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

(小中学校とも、1時間以上と答えた割合)

- ・児童 61.0% (三重県62.7%、全国66.2%) 全国比- 5.2
- ・生徒 71.7% (三重県67.5%、全国70.6%) 全国比+ 1.1

◇項目 15：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。

（「30分以上」と回答した割合）

- ・児童 37.8%（三重県38.9%、全国41.1%） 全国比－ 3.3
- ・生徒 21.0%（三重県27.9%、全国30.9%） 全国比－ 9.9

#### 【学校質問紙】

◇項目 63：調査対象の学年の児童・生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか（国語／算数共通）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校100.0%（三重県99.1%、全国97.2%）
- ・中学校100.0%（三重県94.9%、全国90.2%）

◇項目 64：調査対象の学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか（国語／算数共通）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校100.0%（三重県94.1%、全国91.6%）
- ・中学校100.0%（三重県94.9%、全国94.5%）

◇項目 65：調査対象の学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／算数共通）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校100.0%（三重県91.5%、全国84.4%）
- ・中学校100.0%（三重県94.9%、全国94.5%）

◇項目 66：調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（国語／算数共通）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校100.0%（三重県95.7%、93.3%）
- ・中学校100.0%（三重県76.6%、76.6%）

■家庭での学習についての質問で、計画を立てて学習している割合は、児童・生徒ともに全国よりやや低い数値を示しています。それでも、計画的に学習している割合は、児童で3分の2、生徒が2分の1となっています。計画的にできていない児童・生徒に対して指導していく必要があります。「学校の宿題をしていますか」「学校の授業の予習・復習をしていますか」では、児童の方が全国との開きが大きくなっています。「平日1時間以上学習をしている」割合は、児童が全国平均より低い数値となっています。家庭学習に取り組んでいない児童が多くなっているようです。家庭学習の必要性について、さらに指導していく必要があります。

また、読書習慣については、児童・生徒とも30分以上読書していると答えた割合は全国より低く、特に生徒の数値が低くなっています。読書についても指導していく必要があります。

■家庭学習に対する学校の取組は、「保護者に対する児童・生徒の家庭学習を促すような働きかけ」や「家庭学習の与え方についての教職員の共通理解図ること」など、家庭学習の大切さを感じながら取り組みを進めている様子が伺えます。

#### (4) 家庭・地域・社会について

##### 【児童生徒質問紙】

◇項目 18：家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・児童 79.3%（三重県80.0%、全国80.5%） 全国比－ 1.2
- ・生徒 62.7%（三重県75.4%、全国76.0%） 全国比－13.3

◇項目 19：5年生（1, 2年）までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 81.7%（三重県74.9%、全国74.4%） 全国比＋ 7.3
- ・生徒 77.6%（三重県68.5%、全国68.7%） 全国比＋ 8.9

◇項目 20：今住んでいる地域の行事に参加していますか。（生徒：項目 42）

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 71.9%（三重県66.7%、全国62.7%） 全国比＋ 9.2
- ・生徒 68.7%（三重県49.6%、全国45.6%） 全国比＋23.1

◇項目 21：地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 60.9%（三重県62.0%、全国63.8%） 全国比－ 2.9
- ・生徒 49.2%（三重県58.5%、全国59.3%） 全国比－10.1

◇項目 22：地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

（生徒：項目 44）

- ・児童 43.9%（三重県46.0%、全国49.9%） 全国比－ 6.0
- ・生徒 35.8%（三重県38.0%、全国38.7%） 全国比－ 2.9

◇項目 23：地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。

（「参加したことがある」と回答した割合）

- ・児童 40.2%（三重県30.8%、全国36.1%） 全国比＋ 4.1
- ・生徒 58.2%（三重県47.9%、全国51.8%） 全国比＋ 6.4

◇項目 24：地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか。

- ・児童 53.7%（三重県42.7%、全国41.6%） 全国比+12.1
- ・生徒 44.8%（三重県25.6%、全国25.5%） 全国比+19.3

◇項目 25：新聞を読んでいますか。

（「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した割合）

- ・児童 23.2%（三重県20.4%、全国19.9%） 全国比+3.3
- ・生徒 0.0%（三重県14.3%、全国13.9%） 全国比-13.9

◇項目 26：テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）。

（「よく見る」「時々見る」と回答した割合）

- ・児童 89.0%（三重県85.2%、全国86.2%） 全国比+2.8
- ・生徒 83.6%（三重県86.4%、全国86.6%） 全国比-3.0

■「家庭」で家の人と学校の出来事について話をする割合は、生徒が全国よりも低い数値を示しています。児童は、ある程度話をしているものの、生徒が会話する状況は少ないものと考えられます。

■「地域」との関わりでは、「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と抱え合ったりする機会」が多く設けられています。また、「地域の行事」への参加率は、特に生徒は全国を大きく上回っています。また、地域でのボランティアについては、児童生徒とも全国と比べて高い数値を示しています。「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊ぶ」と答えた児童・生徒も、全国と比較すると高い数値を示しています。ただ、「地域や社会で起こっている問題や出来事への関心」は低く、地域や社会のために何をすべきか考える」ことも、全国と比べても低い数値を示しています。

過疎地である大台町では、子どもたちが地域の良さ、地域の人々の温かさに触れ、地域に愛着を持つ活動が大切であり、またそのための活動を各学校で取り組んでいます。その結果の現れと考えられます。今後も地域に根ざした取り組みを進めていくとともに、地域のことを考えさせることもしていかなければならないと考えます。

■「社会」への関心では、「新聞」を読む割合は児童は全国より高い数値を示していますが、生徒は「週に1回」も読んでいない状況にあります。新聞を見ない生徒は、「テレビ」でニュースをみているようですが、それでも全国と比較してやや少ない状況にあります。

## (5) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

### 【児童生徒質問紙】

◇項目 55：5年生まで（1，2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか（生徒：項目 52）

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 74.4%（三重県75.1%、全国76.7%） 全国比－ 2.3
- ・生徒 64.2%（三重県75.3%、全国73.8%） 全国比－ 9.6

◇項目 56：5年生まで（1，2年生のとき）に受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか（生徒：項目 53）

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 61.0%（三重県58.9%、全国61.0%） 全国比± 0.0
- ・生徒 50.7%（三重県53.0%、全国53.8%） 全国比－ 3.1

◇項目 57：学級の友達と（生徒）の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか（生徒：項目 54）

（「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

- ・児童 83.0%（三重県76.4%、全国77.7%） 全国比＋ 5.3
- ・生徒 70.2%（三重県76.5%、全国76.3%） 全国比－ 6.1

### 【学校質問紙】

◇項目 13：調査対象の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

（「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答して割合）

- ・小学校 50.0%（三重県84.5%、全国83.6%）
- ・中学校 100.0%（三重県88.0%、全国80.8%）

◇項目 22：調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか（生徒：項目 21）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県94.3%、全国93.0%）
- ・中学校 50.0%（三重県91.7%、全国92.6%）

■「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」という問いには、児童・生徒は全国より低い数値を示しており、小学校では、半数の学校ができていると捉えています。また、「児童生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問いでは、児童は全国より高い数値を示し、肯定的に捉えているのに対して、生徒は全国平均より低く、できていないと捉えています。学校も「前年度までに、習得・活

用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」について、中学校は1校ができていないと答えており、中学校において授業改善に取り組まなければならない状況があります。

## (6) 規範意識に関わって

### 【児童生徒質問紙】

◇項目4：学校のきまり（規則）を守っていますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 86.6%（三重県88.6%、全国89.5%） 全国比－ 2.9
- ・生徒 86.6%（三重県96.0%、全国95.1%） 全国比－ 8.5

◇項目5：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 98.8%（三重県97.0%、全国96.8%） 全国比＋ 2.0
- ・生徒 97.0%（三重県96.2%、全国95.5%） 全国比＋ 1.5

### 【学校質問紙】

◇項目12：調査対象の学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか。

（「その通りだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県91.2%、全国89.4%）
- ・中学校 50.0%（三重県95.0%、全国94.6%）

◇項目25：調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか。（生徒：項目24）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県 97.1%、全国97.7%）
- ・中学校 100.0%（三重県100.0%、全国98.3%）

■「学校のきまり（規則）を守っていますか」という項目については、児童・生徒とも同じ値となっています。昨年度（児童100.0%、生徒97.5%）と比較し、数値がかなり低くなっています。本年度の児童・生徒は、きまり（規則）を守らなくてはいけないという意識が希薄化している傾向にあります。

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対して、多くの児童・生徒は「いじめはいけないことだ」と考えています。また、全国値より高い数値も示しています。しかし、昨年度（児童100.0%、生徒97.5%）よりも低くなっています。私たち教育に携わる者としては、何があっても「いじめ」は「悪い」ことだと答えられる子どもを育てて行かなくてはなりません。その数値が低くなっていることを考えて、今後の人権教育等の取り組み、心の豊かな児童・生徒の

育成への取組を強固なものになるよう取り組んで参ります。

- 学校質問紙で、「学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守る）の維持を徹底しましたか」という問いに対して、各小中学校ともに行ったと答えています。しかし、「当該学年の児童・生徒は、授業中私語が少なく、落ち着いていると思いますか」という設問に対し、1中学校が「そう思わない」と勝っています。学習規律が形成されていない状況が伺えます。学力向上にしても、生活習慣の形成にしても、学習規律を形成することは基本となります。児童・生徒にそのことを理解させるよう今後とも各校で取り組んでいきたいと思ひます。

## (7)「算数・数学」の学習に関わって

◇項目 27：算数・数学の勉強は好きですか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- |     |       |                    |      |     |
|-----|-------|--------------------|------|-----|
| ・児童 | 63.4% | （三重県64.9%、全国64.0%） | 全国比- | 0.6 |
| ・生徒 | 47.8% | （三重県54.4%、全国53.9%） | 全国比- | 6.1 |

◇項目 28：算数・数学の勉強は大切だと思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- |     |       |                    |      |     |
|-----|-------|--------------------|------|-----|
| ・児童 | 90.2% | （三重県92.2%、全国92.1%） | 全国比- | 1.9 |
| ・生徒 | 80.6% | （三重県84.4%、全国83.6%） | 全国比- | 3.0 |

◇項目 29：算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- |     |       |                    |      |     |
|-----|-------|--------------------|------|-----|
| ・児童 | 86.6% | （三重県85.5%、全国83.4%） | 全国比+ | 3.2 |
| ・生徒 | 62.7% | （三重県75.0%、全国71.0%） | 全国比- | 8.3 |

◇項目 30：算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思ひますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- |     |       |                    |      |     |
|-----|-------|--------------------|------|-----|
| ・児童 | 74.4% | （三重県75.6%、全国74.3%） | 全国比+ | 0.1 |
|-----|-------|--------------------|------|-----|

◇（生徒：項目 30）：数学ができるようになりたいと思ひますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- |     |       |                    |      |     |
|-----|-------|--------------------|------|-----|
| ・生徒 | 85.1% | （三重県93.1%、全国92.5%） | 全国比- | 7.4 |
|-----|-------|--------------------|------|-----|

◇項目 31：算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- |     |       |                    |      |     |
|-----|-------|--------------------|------|-----|
| ・児童 | 78.0% | （三重県79.2%、全国78.4%） | 全国比- | 0.4 |
| ・生徒 | 68.7% | （三重県72.7%、全国70.3%） | 全国比- | 1.6 |

◇項目 32 : 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・ 児童 67.0% (三重県 64.3%、全国 64.4%) 全国比+ 2.6
- ・ 生徒 40.3% (三重県 38.2%、全国 38.7%) 全国比+ 1.6

◇項目 33 : 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・ 児童 89.0% (三重県 91.2%、全国 90.3%) 全国比- 1.3
- ・ 生徒 68.6% (三重県 74.8%、全国 72.9%) 全国比- 4.3

◇項目 34 : 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・ 児童 79.3% (三重県 78.8%、全国 78.5%) 全国比+ 0.8
- ・ 生徒 65.7% (三重県 70.3%、全国 69.2%) 全国比- 3.5

◇項目 35 : 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・ 児童 80.4% (三重県 80.1%、全国 80.4%) 全国比± 0.0
- ・ 生徒 68.7% (三重県 71.2%、全国 70.4%) 全国比- 1.7

◇項目 36 : 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・ 児童 90.2% (三重県 85.8%、全国 85.8%) 全国比+ 4.4
- ・ 生徒 83.6% (三重県 77.5%、全国 80.6%) 全国比+ 3.0

◇項目 37 : 今回の算数・数学の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか。

(「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合)

- ・ 児童 62.2% (三重県 70.9%、全国 70.6%) 全国比- 8.4
- ・ 生徒 41.8% (三重県 58.2%、全国 55.5%) 全国比- 13.7

## 【学校質問紙】

◇項目 37：調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、  
補足的な学習の指導を行いましたか（中学校：項目 36）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100. 0%（三重県 93. 8%、全国 94. 3%）
- ・中学校 100. 0%（三重県 95. 6%、全国 91. 4%）

◇項目 38：調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、  
発展的な学習の指導を行いましたか（中学校：項目 37）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 75. 0%（三重県 68. 2%、全国 64. 5%）
- ・中学校 50. 0%（三重県 74. 1%、全国 66. 5%）

◇項目 39：調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、  
実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか（中学校：項目 38）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 75. 0%（三重県 82. 5%、全国 78. 0%）
- ・中学校 50. 0%（三重県 73. 4%、全国 72. 1%）

◇項目 40：調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、  
計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか（中学校：項目 39）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100. 0%（三重県 94. 6%、全国 96. 7%）
- ・中学校 100. 0%（三重県 96. 9%、全国 96. 2%）

■「算数・数学の勉強は好きか」「算数・数学の勉強は大切か」という問いに対しては、児童はやや低い数値を示しています。「算数・数学の授業の内容はよく分かるか」という問いに対しては、児童は全国平均よりも高い数値を示しています。しかし、生徒はいずれも全国と比較してかなり低い数値を示しています。児童の「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思うか」という問いに対しては、全国と同等の数値を示していますが、生徒の「数学ができるようになりたいと思うか」の問いには、全国平均よりかなり低い数値を示しています。

■「算数・数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えるか」については、児童・生徒とも全国平均よりもやや低い数値を示しており、諦めて捨てる児童・生徒がいることも伺えます。また、「算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うか」「算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えるか」「算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしているか」については、児童は全国平均並みの回答をしています。生徒はいずれも低い数値を示しています。

- 「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようノートに書いているか」はともに全国平均より高い数値を示しています。「今回の算数・数学の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題があったが、どのように解答したか」の設問では、児童・生徒ともに全国平均よりもかなり低い数値を示しています。記述問題に対しては、書こうと意欲を持って取り組んだ児童・生徒が少なかったことを物語っています。記述問題に対する取組をしていく必要があります。
- 学校質問紙では、「補充的な学習の指導」や「計算問題などの反復練習をする授業」については、小中学校全校が取り組んでいます。「発展的な学習」の導入や、「実生活における事象との関連を図った授業」については、各校の実情に合わせて行っています。

## (7)「理科」の学習に関わって

### 【児童生徒質問紙】

#### ◇項目 38：理科の勉強は好きですか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 79.2% (三重県79.0%、全国83.5%) 全国比－ 4.3
- ・生徒 58.2% (三重県63.0%、全国62.9%) 全国比－ 4.7

#### ◇項目 39：理科の勉強は大切だと思いますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 92.4% (三重県84.6%、全国85.4%) 全国比＋ 7.0
- ・生徒 74.6% (三重県71.7%、全国70.6%) 全国比＋ 4.0

#### ◇項目 40：理科の授業の内容はよく分かりますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 85.3% (三重県87.0%、全国89.4%) 全国比－ 4.1
- ・生徒 67.2% (三重県73.4%、全国70.0%) 全国比－ 2.8

#### ◇項目 41：自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 90.3% (三重県86.2%、全国87.0%) 全国比＋ 3.3
- ・生徒 82.1% (三重県77.8%、全国77.6%) 全国比＋ 4.5

#### ◇項目 42：理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

- ・児童 69.5% (三重県62.5%、全国64.7%) 全国比＋ 4.8
- ・生徒 47.8% (三重県44.4%、全国45.4%) 全国比＋ 2.4

◇項目 43：理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つと思いますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 76.8%（三重県73.1%、全国72.9%） 全国比+ 3.9
- ・生徒 68.6%（三重県56.5%、全国55.7%） 全国比+ 12.9

◇項目 44：将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 31.7%（三重県24.7%、全国26.1%） 全国比+ 5.6
- ・生徒 22.4%（三重県23.1%、全国22.2%） 全国比+ 0.2

◇項目 45：理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 68.3%（三重県53.8%、全国54.5%） 全国比+ 13.8
- ・生徒 49.2%（三重県44.2%、全国41.4%） 全国比+ 8.2

◇項目 46：理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか

（「週1回以上」「月1回以上」と回答した割合）

- ・児童 91.4%（三重県88.4%、全国89.1%） 全国比+ 2.3
- ・生徒 94.0%（三重県85.6%、全国87.1%） 全国比+ 6.9

◇項目 47：観察や実験を行うことは好きですか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 90.2%（三重県89.0%、全国89.8%） 全国比+ 0.4
- ・生徒 70.2%（三重県81.3%、全国82.1%） 全国比- 11.9

◇項目 48：理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 78.0%（三重県71.1%、全国75.2%） 全国比+ 2.8
- ・生徒 50.7%（三重県54.3%、全国58.5%） 全国比- 7.8

◇項目 49：理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか（生徒：観察や実験の結果をもとに考察していますか）

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 79.2%（三重県79.3%、全国81.8%） 全国比- 2.6
- ・生徒 79.1%（三重県69.0%、全国72.3%） 全国比+ 6.8

◇項目 50：理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

- ・児童 74.4%（三重県64.9%、全国68.1%） 全国比+ 6.3
- ・生徒 59.7%（三重県57.3%、全国59.0%） 全国比+ 0.7

◇項目 51：今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

（「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合）

- ・児童 72.0%（三重県75.5%、全国77.3%） 全国比- 5.3
- ・生徒 53.7%（三重県63.8%、全国62.8%） 全国比- 9.1

◇項目 52：5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたが（児童のみ）

（「よく思った」「時々思った」と回答した割合）

- ・児童 91.4%（三重県85.1%、全国87.5%） 全国比+ 3.9

#### 【学校質問紙】

◇項目 42：調査対象学年の児童・生徒に対する理科の授業において、前年度に、児童・生徒の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか

（中学校：項目 40）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県96.6%、全国96.7%）
- ・中学校 100.0%（三重県99.4%、全国97.7%）

◇項目 45：調査対象学年の児童・生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか（中学校：項目 43）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県85.9%、全国85.7%）
- ・中学校 100.0%（三重県90.5%、全国90.7%）

◇項目 46：調査対象学年の児童・生徒に対する理科の指導として、前年度までに、児童・生徒が科学的な体験や自然体験をする授業を行いましたか（中学校：項目 44）

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県89.0%、全国88.1%）
- ・中学校 100.0%（三重県79.7%、全国82.0%）

■「理科の勉強は好きか」「理科の授業の内容はよくわかるか」については、児童・生徒とも全国値よりも低い数値を示しています。しかし、「理科の勉強は大切か」については、高い数値を示している。大切さは熟知しながら、理科の勉強はもう一つ好きになれない、内容がよくわからないと感じているようである。そう感じながらも生徒は、

全国平均正答率よりも高くなっており、ある程度の力が付いています。

「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがあるか」「学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えているか」「学習したことは、将来、社会に出たとき役立つと思うか」についても高い数値を示しています。

- 「観察や実験」に関する一連の設問については、「実験や観察を行うことは好きか」について、「好きでない」と回答した割合が生徒で高い数値を示しています。その中で、理科室で観察や実験をどのくらい行ったかという問いでは、「週1回以上、月1回以上」と答えた生徒が多くなっている。
- 理科の記述問題でも、「最後まで解答を書こうと努力した」児童・生徒は、全国値と比較しても低い数値を示しています。全ての教科を通して、「書く」ことに力を入れていく必要があるのかとも思いますが、小中学校とも国語Aの「書くこと」では高い数値を示しています。算数・数学、理科などの記述式の問題にもっと慣れさせる必要があるものと考えます。
- 学校質問紙では、各小中学校とも理科の授業や指導において、前年度（まで）に「児童・生徒の好奇心や意欲が喚起されるよう工夫」したり、「実生活における事象との関連を図った授業」をしたり、「科学的な体験や自然体験をする授業」行っています。それが、理科の力に結びつき、小学校でもほぼ全国値に近い数値を示し、中学校では全国よりも高い数値を示すに至っているものと考えます。

## (8) 学校運営に関する取組状況について

### 【学校質問紙】

◇項目 83：学校として業務改善に取り組んでいますか（中学校：項目 80）

（「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県 98.6%、全国 97.4%）
- ・中学校 100.0%（三重県 98.8%、全国 96.8%）

◇項目 18：児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか（中学校：項目 17）

- ・小学校 100.0%（三重県 95.5%、全国 94.9%）
- ・中学校 100.0%（三重県 90.5%、全国 93.1%）

- 各小中学校とも業務改善に取り組んでいる。近年、働き方改革が叫ばれているが、特に学校では業務改善に取り組み、教職員がゆとりをもって児童・生徒に向かうことが大切となる。その意味でも、業務改善の取組は大切である。また、PDCAサイクルによる取組は、三重県型学校経営品質の取組が行われており、各校とも確立されてきている。

## (9) 調査結果の取扱い

### 【学校質問紙】

◇項目 31：平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか（中学校：項目 30）

（「よく行った」「行った」と回答した割合）

- ・小学校 75.0%（三重県98.4%、全国97.6%）
- ・中学校 100.0%（三重県97.5%、全国96.1%）

◇項目 32：平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか。（学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）（中学校：項目 31）

（「よく行った」「行った」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県97.8%、全国92.3%）
- ・中学校 100.0%（三重県96.8%、全国88.5%）

◇項目 33：全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。（中学校：項目 32）

（「よく行った」「どちらかといえば、行っている」と回答した割合）

- ・小学校 100.0%（三重県97.7%、全国95.4%）
- ・中学校 100.0%（三重県96.9%、全国91.8%）

■「調査結果の取扱い」については、小中学校とも全ての項目でほぼ取り組んでいます。できていないところは、今後どのようにすればよいか話し合っていきます。

### 3 大台町におけるこれまでの取り組みと成果と課題

#### (1) これまでの取り組み

- 「大台町学校教育の方針」の策定と各学校での具体化した取り組み。
- 大台町小中学校連携教育推進事業の中で、学力向上推進委員会主催による全体研修会の開催
- 学力向上推進委員会における、C R T（学力標準検査）の分析結果や学力向上の取り組みの交流。
- 多気郡学力向上推進会議における講師を招聘しての研修会の開催と実践交流。
- 指導主事による学校訪問と授業研究・事前事後検討会における指導・助言。
- 学校図書館・室の充実のため、町図書館司書を派遣。
- 町の図書館司書と連携した資質向上の取り組み。

#### (2) 成果と課題

【教科に関する調査より】

##### ① 各教科の平均正答率と無回答率の状況

- 小学校は国語Aは全国平均と同等の数値を示しています。国語Bと理科については全国平均よりやや低い数値を示しています。算数Aと算数Bに関しては全国平均より低い数値を示しています。中学校は、国語Aと理科は全国平均よりやや高い数値を示しています。国語Bは同等の力を示しています。数学AとBは、全国平均より高い低い数値を示しています。

- 無回答率が、全国に比べて高くなっています。

・小国A…大台町	2.	05%	(県2.98%、全国3.51%)
・小国B…大台町	6.	02%	(県3.89%、全国3.76%)
・小算A…大台町	3.	43%	(県2.03%、全国2.48%)
・小算B…大台町	12.	19%	(県8.26%、全国7.93%)
・小理…大台町	1.	44%	(県1.23%、全国1.14%)
・中国A…大台町	3.	69%	(県2.89%、全国3.15%)
・中国B…大台町	4.	64%	(県3.01%、全国3.01%)
・中数A…大台町	4.	24%	(県2.81%、全国3.28%)
・中数B…大台町	16.	25%	(県11.55%、全国12.61%)
・中理…大台町	5.	80%	(県4.96%、全国5.04%)

小学校の国語Aは、全国より低くなっていますが、ほかの全教科は小中学校とも全国より高くなっています。昨年度までは、無回答率は全国よりもほとんどの教科で低い状況にありましたが、本年度は全国平均と同等かやや高い数値を示している教科においても、無回答率は高くなっています。児童生徒の中に学力の差が生じていることを表しているものと考えます。補充学習等をさらに充実していく必要があると考えます。

##### ② 設問別の正答率の状況（◇成果、◆課題）

〈小学校〉

- ◇国語…日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使うことができています。
- ◇算数… $180^\circ$ の角の大きさについて理解することができます。

- ◇理科…2つの異なる方法の実験結果を分析して解釈することができています。
- ◇国語・理科の記述式問題の正答率が、前回に比べ減少傾向にあるが、全国比で見ると上回っています。
- ◆国語…目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことができていません。
- ◆算数…メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述することができていません。
- ◆理科…実験結果を分析して考察し、その内容を記述することができていません。
- ◆算数の記述式問題の正答率が前年に比べ大幅に改善されているものの、全国・県を下回っています。

〈中学校〉

- ◇国語…古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉えることができています。
- ◇数学…数直線上に示された負の整数を読み取ることができています。
- ◇理科…地震と音の速さに関する知識を活用することができています。
- ◇理科の記述式問題の正答率が前回に比べ上昇し、全国・県を上回っています。
- ◆国語…目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことができていません。
- ◆数学…一次関数の意味を理解することができていません。
- ◆理科…植物を入れた容器の中の温度が高くなる蒸散以外の原因を指摘することができていません。
- ◆国語・数学の記述式の正答率が、前年に比べ伸びているものの、全国比で見ると低くなっています。

#### 4 児童生徒の学びの充実を図るための今後の取組

##### (1) わかる授業の推進

- ①すべての児童生徒が、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できる授業づくりを進めます。
- ②「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行い、思考力・判断力・表現力を育む授業づくりを進めます。
  - ・問題解決的な学習の基本的な取り組み
  - ・他の考えを受け入れて、判断する力
  - ・目的や相手に応じて話したり、聞いたりする力
  - ・資料やグラフ・表を読み取る力
  - ・ICT等を活用して資料を使って表現できる力
  - ・目的に応じて資料を読み、自分の考えを書いたり、理由が分かるように書いたりする力
- ③「見通す・振り返る活動」を重視した授業づくりを進めます。
  - ・めあての提示の工夫等、実生活における事象との関連を図った授業
  - ・補充的・発展的な学習指導の充実
  - ・振り返る活動について、その時間の確保に努め、学力定着につながるあり方を工夫していくこと

(2) 研修の推進

- ①習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の研修を充実させ、学校の教育活動に学力向上のP D C Aサイクルを無理なく位置づけます。
- ②小中連携教育推進会議において、全国学力・学習状況調査、C R T検査の分析結果や、学力向上の取り組みの交流を継続することにより、各校でのより有効な授業実践につなげます。

(3) 学習、生活習慣の改善

- ①小中連携を推進し、家庭学習のあり方を検証し、学習時間とともに自主的な学習習慣が身につくよう取り組みを引き続き行います。
- ②世の中の出来事に興味・関心を持ち、進んで新聞を読む児童生徒をみざして、家庭と連携して改善への取組を行っていきます。